

むつみ

第52号 2006.1



福島県土地改良団体職員連絡協議会

目 次

新年のご挨拶	福島県土地改良団体職員連絡協議会	1
新年のご挨拶	福島県土地改良事業団体連合会	2
(水土里ネット福島)		
専務理事 渡 部 敏 則		
第二十九回総会		
第二十八回全国土地改良大会		
支部だより		
永年勤続		
土地改良区と共に歩んだ三十年	水土里ネット小川町	12
柳 内 喜久子		
農業土木技術者としての三十年	水土里ネット福島	12
福田 一 夫		
二十年の節目に想う	鮫川堰土地改良区	13
大井川 和 弘		
バランス、バランス	水土里ネット福島	13
紺 野 みのり		
三十年を振り返って	水土里ネット福島	14
勤続二十年表彰を受賞して	柳津町土地改良区	14
小 島 貞 彦		
14	14	14

平成17年度視察研修

県営ほ場整備事業辻興屋横堰地区を視察して

伊達西根堰土地改良区

遠 藤 俊 明

研修によせて 矢吹土地改良区

吉 田 昌 照

視察研修 会津大川土地改良区

大 竹 伸 明

視察研修に参加して 会津北部土地改良区

鈴 木 秀 優

視察研修を終えて 会津中央土地改良区

二 瓶 剛 史

平成17年度視察研修に参加して 塩川西部土地改良区

青 木 祐 利 子

年男年女 土地改良区で思うこと

鮫川堰土地改良区

伊 藤 弘 美

農業の変化に対応して 伊達西根堰土地改良区

引 地 亨

「ウォーキング」 穴堰水系土地改良区

鈴 木 麗 子

三十年を振り返って

20 19 19

紺 野 みのり

柳津町土地改良区

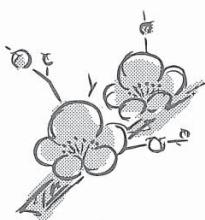
斎 藤 庄 二

表紙写真

水路と水車のある公園 (会津大川土地改良区)

R100

本文は古紙配合率100%、
白色度70%の再生紙を使用
しています。



新年のご挨拶



福島県土地改良団体職員連絡協議会

会長 棚木 均

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、ご健勝にて新年を迎えた事と存じお慶び申し上げます。

昨年は、大きな災害もなく、天候にも恵まれ農産物も豊作となりましたが、価格面に於いては低迷し、農家経営も容易ではない状況になつております。

この様な中で消費者の求める農産物の作付け（米のみでなく）、食の安心・安全という付加価値のある農産物を生産して、供給することが出来れば農家として充分に生残れるのではないかと思つています。

このために土地改良区の職員として何をすれば良いのかを考えたいと思っています。

一つの方法として今、新しい・食料・農業・農村基本計画の中でも「農地・水・農村環境保全向上活動支援事業」という事業が予定されています。

平成十八年度に於いては、実験事業が実施され、県内で十六地区が候補地として選定されました。この事業は地域において、農地・

水・環境の良好な保全と質的向上を図るために、地域ぐるみで効果の高い共同活動を支援し、農家ぐるみでの環境保全に向けた営農活動への支援等、さらに活動の質を向上させるための取組みに対する支援を行う事業であります。

農地・水・農村は、国民の食料の安定供給の基盤であり、国土保全など多面的機能の基礎となる社会的共通資本であり、地方の存立基盤としての農業、農村を支え地域住民が受ける自然生態系や景観といった環境資源としての性質を持つことから、施設を管理している地域に対し、管理経費の支援をするという事業です。

今、土地改良事業は、多くのメニューがあります。組合員、農林事務所の方々と相談しながら、そのメニューの中から自分の地域に合った事業を取組み、組合員の方々の様々なニーズに応え実施することが、土地改良区職員としての責務ではないかと思います。

現在、県において土地改良区の統合整備計画について検討されております。

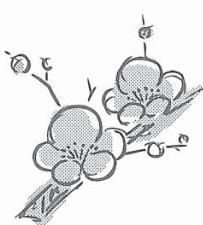
その中で今後の土地改良区のあり方として、自立・独立した土地改良区と言つことが求められております。

今、市町村の合併が急激に行われてますが、多くの土地改良区に於いては、今まで行政と一体となつて土地改良事業が進められてきたことと思います。

事業が完了してからも、行政から多額の助成によつて運営されている土地改良区もあることから、今後市町村合併後の土地改良区のあり方について、合併なども視野に入れながら、職員としても自立・独立した土地改良区ということを考えて行かなければならぬのではないかと思うものであります。

最後になりましたが、会員皆様のご活躍とご健勝ご多幸を祈念申し上げ年頭のご挨拶と致します。

新年のご挨拶



水土里ネット福島
(福島県土地改良事業団体連合会)

専務理事 渡 部 敏 則

くことも私どもに課せられた大きな使命と考えております。

このような背景の中、平成十九年度より本格導入に向けて十八年度からモデル事業として実施される資源保全施策については、国、県、市町村、そして土地改良区と連携し、積極的に取り組んで参ります。

福島県土地改良団体職員連絡協議会会員の皆様、明けましておめでとうございます。

皆様には、ご健闘で輝かしい新年を迎えたことと心からお慶び申し上げます。

水土里ネット福島の業務運営、農業農村整備事業の推進につきましては、日ごろより特段のご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、平成十八年度の農業農村整備事業関係予算は、対前年度比九五・八%の七、六一八億円余となつております。五年連続の緊縮型となる厳しい内容となつております。

しかしながら、農業・農村は、食料の安定供給機能のみならず、自然豊かな美しい国土を形成し、水源のかん養に加え、水害を未然に防止する国土保全機能等、多面的な機能を有する重要な地域であります。

その多面的機能を効果的に發揮させるためには、農業・農村整備事業を着実に実施していくことが重要であると共に、守り続けて行

また、「公共工事の品質確保の促進に関する法律」が平成十七年四月一日より施工されたことにより、公共事業の品質確保が促進されることから、本会としてもさらなる技術力の向上を図り、市町村の事業執行に対し積極的に発注関係業務の支援を行つて参ります。

次に、資源循環施策への取組みですが、一昨年より会津美里町（旧会津高田町）のご協力を得て進めて参りました堆肥化実験施設については、昨年秋に全ての手続きが完了し、製造される堆肥に「みさと1号」と命名し、本格実験開始の運びとなりました。

この施設は、家庭等から排出される生ゴミや、畜産廃棄物、粉殻などを堆肥化して農地に還元し、有機性資源を有効活用した持続性の高い、安全・安心な資源循環型農業の実現と、これら廃棄物を焼却・埋立処分していた経費の節減を併せて実現することを目的に取り組んで参ります。

さらには、農地や農業用水利施設の多面的機能の確保等、国民が期待する役割に対し、土地改良区が地域の方々と一緒に取り組んでいく「21世紀土地改良区創造運動」についても積極的に協力・支援してまいります。

今後とも、水土里ネット福島に対しまして、ご理解とご協力を賜りますようお願い申上げますと共に、貴協議会の益々のご発展と皆様のご健勝をご祈念申上げまして新年のご挨拶と致します。

第二十九回総会

福島県土地改良団体職員連絡協議会第二十九回総会は、平成十七年七月五日（火）午後一時三〇分より会津若松市丸峰観光ホテルにおいて開催された。

石神副会長（東根堰土地改良区）の開会宣言、棚木会長（会津北部土地改良区）の挨拶のあと、永年勤続表彰が行われ、表彰状の授与及び記念品の贈呈が行われた。

表彰されました方々は別表のとおりです。受賞者の皆様おめでとうございました。ますますの御活躍をお祈りいたします。

表彰式後、来賓祝辞を会津農林事務所長渡辺正平様、福島県土地改良事業団体連合会副会長飯野陽一郎様よりいただいた。

議長に猪苗代町土地改良区の金本久美子氏が選出され、挨拶後、議事に入った。

議案第一号「平成十六年度事業報告について」、議案第二号「平成十六年度収支決算承認について」が一括議題として出され、事務局の説明、監査員の監査結果報告の後、原案どおり承認された。

議案第三号「平成十七年度補正予算（案）について」、議案第四号「平成十八年度会費・協賛金の額及び徴収方法等について」、議案第五号「平成十八年度事業計画（案）について」、議案第六号「平成十八年度収支予算（案）について」は事務局の説明の後、いずれも原案どおり承認された。

第七号議案「役員の補欠選任について」は、棚倉町土地改良区の斎藤

克憲さんを新しい役員に選任した。

柳内副会長（小川町土地改良区）の閉会宣言により、総会を終了した。



棚木会長挨拶

永年勤続表彰

(順不同・敬称略)

三十年勤続										所属団体名	氏名	
二十年勤続					三十一年勤続							
福島県土地改良事業団体連合会	猪苗代町土地改良区	請戸川土地改良区	柳津町土地改良区	安積疏水土地改良区	安積疏水土地改良区	鮫川堰土地改良区	福島県土地改良事業団体連合会	福島県土地改良事業団体連合会	福島県土地改良事業団体連合会	猪苗代町土地改良区	会津東部土地改良区	請戸川土地改良区
神田博美	谷孝樹	亀井祐子	江畠立行	小島貞彦	山里美	興治立弥	大井川和弘	渡辺洋子	斎藤庄二	佐藤亨	三城伸次	佐々木茂夫
福島県土地改良事業団体連合会	八沢干拓土地改良区											
福島県土地改良事業団体連合会	請戸川土地改良区											

十年勤続						所属団体名	氏名
二十年勤続							
福島県土地改良事業団体連合会							
岩城学	渡辺光則	廣瀬健作	坂内智広	菊田克彦	紺野みのり	原昭江	佐藤清明

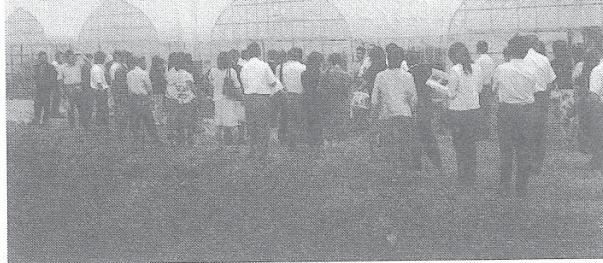
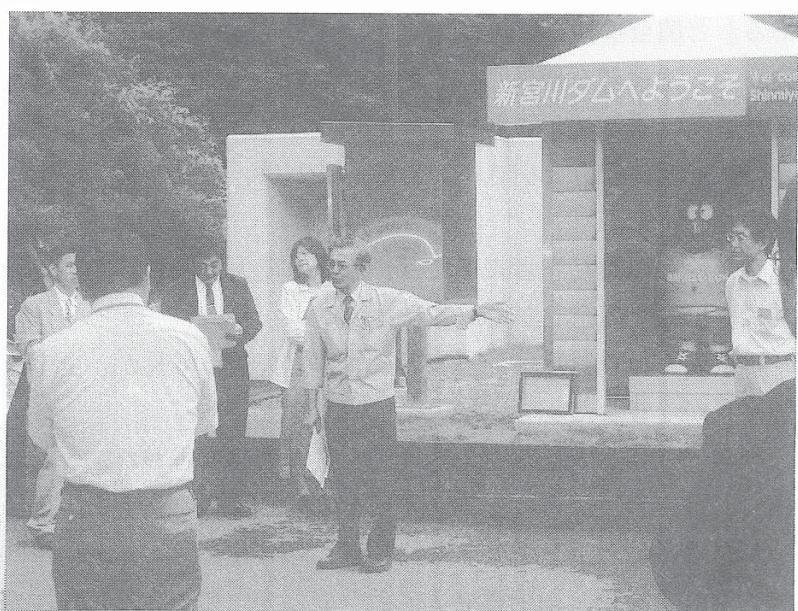


職員業務研修会

総会終了後、業務研修会が行われた。

栃木県那須野ヶ原土地改良区連合の星野恵美子事務局長より「21世紀創造運動について」、水土里ネット福島指導課二瓶眞一課長補佐より「21世紀創造運動に係るアンケート調査の報告について」、会津宮川土地改良区永峯真事務局長より「土地改良区の統合について」講演・事例発表をいただいた。

現地研修は新宮川ダム、会津中央土地改良区南四合地区を見学した。



第28回

全国土地改良大会～山形県大会～

第28回全国土地改良大会は、平成17年10月26日午後1時より山形市のビックウイング「山形交流プラザ」において「生命（いのち）の最上川（みず）うるおう大地に夢かがやいて」のテーマに、全国から3,000名の土地改良関係者が参加し盛大に開催された。本県からは、土地改良区役職員、福島県職員等74名が参加した。

今大会は、「食料・農業・農村基本法」の基本理念である、食料の安定供給の確保、農業・農村の多面的機能の発揮、農業の持続的な発展、農村の振興など実現のために、農業・農村の重要性と、これを支える農業農村整備の役割等を広く国民にアピールするとともに、地域住民の意向と環境との調和への配慮など新たな視点に立った農業農村整備事業の展開を図ることを目的として開催された。

式典では、開催県を代表し、岡崎敏比古水土里ネットやまがた会長が、「新たな食料・農業・農村基本計画では、国の施策と呼応しながら農業農村整備事業を推進し、21創造運動を通じて地域住民との連携、共同作業を模索してきた私たち水土里ネットにとって、農地、農業水利施設が地域の資源として広く認知されることは願ってもないことです。私たちの地道な連綿としたこの活動こそが国の礎である」と開会挨拶を行った。

また、主催者を代表して、野中広務全国水土里ネット会長が「農地や農業用水、さらにはこれを支えるコミュニティ、これら三つを守り育んでいくことにより、農村地域の生産資源や環境資源を、次の世代へしっかりと引き継いでいくことは、将来の日本にとって非常に大切なことである」と主催者挨拶を行った。

土地改良事業功績者表彰では、農林水産大臣表彰6名、農村振興局長表彰16名、全土連会長表彰47名に表彰状と記念品が授与された。

本県からは農村振興局長表彰に岩本忠夫双葉町長が、全土連会長表彰に愛谷堰土地改良区木田和男理事長が受賞した。

今年で3回目となる21創造運動大賞の表彰も行われ、受賞した9水土里ネットの名前と運動内容を紹介、野中会長から各受賞地区へ表彰状と副賞が授与された。

本県からは水土里ネット愛谷堰が「地域協働ネットワーク」として受賞した。

大会宣言では、山形県立農業大学校の大山和志さん、佐藤望美さんが力強く宣言文を朗読し、会場から大きな拍手を受けた。

なお、第29回全国土地改良大会は、平成18年10月10日(火)国立京都国際会館において、「おこしやす歴史育むふるさとへ、いにしえの時空を超えて今伝えたいことがあります。」をテーマに開催される予定。

翌日からは現地研修が行われ、本県は能の里黒川（王祇会館）辻興屋横堰土地区、又、寒河江市二ノ堰地区（水環境整備事業）及び山形市馬見ヶ先頭首工で事業視察を行った。



大會宣言

21世紀に住む私たちは、食料需要の増大、温暖化の進行、生態系の破壊、資源の枯渇など地球規模の危機に直面しています。今、人間の都合だけの豊かさを追い求めるのではなく、地球の資源は有限という認識のもとに、水や物の循環、生態系を回復する努力がはじまっています。

このなかで、自然の恩恵により生き物を育てる農業の力が見直されてきています。特に水田は、生産のみならず、空気をきれいにし、洪水を防ぎ、国土を保全する働きを持つ国民の大切な財産ともいわれています。山形県出身の作家井上ひさしさんは「農業は日本人がつくりあげた長い歴史を持つ社会装置です」と表現しているように、日本の文化は田んぼから生まれ、私たちの生活、感情、民族性の源となっています。

生命を生み育む「水」、花や野菜を芽ぶかせ育てる「土」、豊かな稔りをもたらす風土を守る「里」。わが国どの地にも生きるための知恵、努力を続けてきた先人達の足跡が田畠に残されています。先人達の地道な農耕が、農地のほか鏡守の森、屋敷林、生垣、用水路、ため池、畔や土手といった私たちの原風景を創ってきました。

このような先人の財産を未来へ伝承し、生きる活力となる農村を大切にしていくことが私たちの使命であり、「水土里ネット」の原点でもあります。

新たな「食料・農業・農村基本計画」では、農業と農村が持つ資源を将来にわたって適切に保全管理していくとの政策の方向が示されたところです。

農村集落はかつて「結い」や「入会」など人との調和やとりきめで成り立っていました。地域の創造は多くの人の共同作業ではじめて実現できることを、今こそ、皆で再認識し、それぞれの地域にあった保全管理システムをつくりあげることが必要です。私たち地域に生きる者が、自らの意思と責務により、地域の資源を活かし、農業や環境を活かす地域経営を議論していくことが求められています。

私たち「水土里ネット」は、このような思いをひとつにし、「生命（いのち）の最上川（みず）うるおう大地に夢かがやいて」のもと、「農地・水・農村環境の保全向上」に総力を挙げて取り組み、「21世紀の新たな日本の暮らし」を創造していくことを、ここ山形において宣言します。

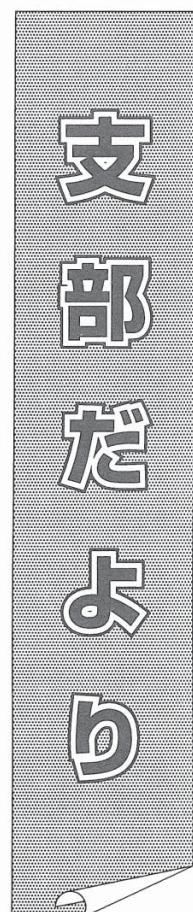
平成17年10月26日
第28回全国土地改良大会



☆全國土地改良事業団体連合会会長表彰
木田和男氏
愛谷堰土地改良区理事長



☆農村振興局長表彰
岩本忠夫氏
前双葉町長
土地改良功績者



県北支部
渡辺洋子

今年もまた残念なニュースからです。

平成十七年二月十一日に、前県北支部長亀岡義彦氏（行年八十歳）がご逝去されました。

桑折町議五期、県議四期を務め、

伊達西根堰土地改良区理事長二十四年、
土地連理事十四年を歴任されました。

二月十四日の告別式は、故人の遺徳を偲ぶ、多数の参列者に見守られ、しめやかに執り行われました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

また、平成十七年八月三日に、福島県北農林事業所農村整備部農地計画グループ課長佐藤勝義氏（五十
六歳）が、ご逝去されました。八月八日の告別式は、多数の参列者に見守られ、しめやかに執り行われました。

あらためてお一人のご冥福をお祈り申し上げます。

- ・新規事業の紹介
- ・「疏水百選」現在の状況

■平成十七年開催済事業

①平成十七年一月二十五日（金）

県北支部第四十六回通常総会

土地改良会館にて

参加者：県北農林事務所長外三十
四名

②平成十七年十一月一日～二日（火
～水）

県外視察研修

秋田県仁井田堰土地改良区

・新農業水利システム保全対策事
業「仁井田堰地区」

・21世紀土地改良区創造運動の取
り組み

秋田県八郎潟基幹施設管理事務所
・八郎潟基幹施設管理の取り組み
参加者：県北農林事業所農村整備
計画グループ課長外二十三名

③平成十七年十一月八日～九日（木
～金）

県北方部土地改良区職員研修会

健康講座
(東根堰土地改良区当番)

■県北支部管内会員数の動向

参加者：土地連企画管理部長外一
十名



平成17年11月31日現在

平成18年1月1日現在

・会員 2市13町2村

・平成十八年一月一日

14 土地改良区が

3市5町2村

13 土地改良区に変更

・平成十七年十月三十一日月館町

土地改良区解散の為脱会

・平成十七年十二月一日

1市3町合併

二本松市（二本松市・安達町

・岩代町・東和町）

県
南
支
部
塩
田
有
子

農業生物資源研究所 について

福島県土地改良団体職員連絡協議会会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

2005年の春から支部担当者としてお世話になっております。若輩ながらも、初めての研修の起案といふことで大きな不安と小さな希望に心を染めながらあれこれと思案致しました。

した。本部担当者の方から茨城県と行き先県を指定していただいた事が、ある日の新聞につくば市内にある農業研究所の存在を知りました。

5町合併

伊達市（伊達町・梁川町・保原町・靈山町・月館町）

した。

緑色蛍光タンパク質つまり、この

光る根本的な素材はクラゲの細胞を

核移植することで、このような豚が

作出されたのです。

この光る豚の細胞を標識として用

いれば、生きた個体中での細胞の増殖や分化を調べる事が可能になり、

医療の分野においては癌の早期発見

ではないかという大変様々な角度から関心深い研究であると思いました。

現在においては何をするにも大変便利な世の中となりました。

便利さが幸福をもたらせるのか？

満たされない気持ちを十分満足させられるのか？と聞かれたならば、い

ちがいにその通りであるとはなぜか

言えないはずであると私は思います。

新しい事を試みようとすれば、そ

れに伴うリスクは大なり小なり付き

モノです。

現在の農業分野も同じであるかと

思われます。便利な時代だからこそ、生活する上で食文化は最も重要なことであると常々思います。

こうして、日常を送る中で様々な研究所で最先端の技術が開発されています。便利になればなるほど色々な角度から見直される事もあります。

加速する技術の最中で古きモノの良さが見直しされると少し微笑ましい光景に映り、快い気持ちとなります。

研究所に視察研修に行こう

と決定するまで、決定してから、実

際に視察してみて：と本当に様々な

思考を頂いたことになりました。

また、これらの研修に参加して頂いた皆様に感謝の気持ちを申し上げ

まして末筆ながらご挨拶とかえさせ

て頂きます。ご協力有り難うござい

ました。

なお二日目は茨城町土地改良区事務運営協議会にてお世話となつて参りました。

りまつ白となり、我里にも冬到来を感じる季節となつてまいりました。

一昨年より一、八八七²mの遊休農地

に、《愛の花園》と称し、山モミジ・

ナナカマド・ヤマボウシ・イタヤカ

エデ・ムラサキシキブ・ヤブツバキ

その後、某テレビ番組で達伝子組換え技術と体細胞クローリン技術の組み合わせによる鼻と蹄が蛍光を放つ豚の開発の紹介を偶然にも拝見しました。

換え技術と体細胞クローリン技術の組み合わせによる鼻と蹄が蛍光を放つ

今年もまた、飯豊の山々もすっか

共に生きる

会
津
支
部
永
嶋
千
代
子

りまつ白となり、我里にも冬到来を感じる季節となつてまいりました。

今年もまた、飯豊の山々もすっか

・サンゴジュ等の樹木を、一方には、山地に自生するシユンラン・ヒトリシズカ・エビネ・エンレイソウ・クマガイソウ・チゴユリ等の野草を、棚柵には、落葉つる性のアケビ・フジ・ノウゼンカズラ・クレマチス等を、日当たりの良い所には、ラベンダー・カモミール・タイム等の（ハイブ）芳香野草と、シラー・スノーフレーク・クロコスミア等の球根草花を、木陰には、ハナショウブ・アジサイ等を、道路に面した傾斜部分には、芝桜と十二単衣（アジユガ）を植栽し、四季を通して、赤・白・ピンク・黄色・紫色の花をつけ、通りすがりの人も足を止めて、花園の中を散策したり、わざわざ遠くから見にきて下さる方もおられます。

以前は、雑草がぼうぼうだった所に、「今、壊れゆく自然の森を」と思い、山の樹木・草花を植え、小鳥や、虫たちが自由に集まり、戯れる姿を夢見つつ、家族皆んなで、少しずつ始めたのがきっかけでした。

休日に、花園の手入れにと思い、向かう途中、道ばたで一輪の薄むらさき色の野菊を見つけました。夏のあいだ何回となく刈り取られても、懸命に生きようとし、実を付けることもできない今の季節に、誰にも花

ダ・カモミール・タイム等の（ハイブ）芳香野草と、シラー・スノーフレーク・クロコスミア等の球根草花を、木陰には、ハナショウブ・アジサイ等を、道路に面した傾斜部分には、芝桜と十二単衣（アジユガ）を植栽し、四季を通して、赤・白・ピンク・黄色・紫色の花をつけ、通りすがりの人も足を止めて、花園の中を散策したり、わざわざ遠くから見にきて下さる方もおられます。

以前は、雑草がぼうぼうだった所に、「今、壊れゆく自然の森を」と思い、山の樹木・草花を植え、小鳥や、虫たちが自由に集まり、戯れる姿を夢見つつ、家族皆んなで、少しずつ始めたのがきっかけでした。

休日に、花園の手入れにと思い、向かう途中、道ばたで一輪の薄むらさき色の野菊を見つけました。夏のあいだ何回となく刈り取られても、懸命に生きようとし、実を付けるこ

とを、研究してきました。そこで、花園の手入れに日々明け暮れております。

現在、加速度的に進む電子化・IT化で生活は便利になり、仕事も合理化され、時間をかけずに生産や事務処理が可能になってきた反面、本来持っている人間同士のふれあいやコミュニケーションもなく相手に対する思いやりも薄れて、私たちの生活環境・社会環境は大きく変わっています。利便性・経済効果を追求・優先する反面、自

然環境がどんどん破壊されつつある今日、《新緑は山を上り、紅葉は山を下りる》この美しい景色・豊かな自然環境を、後生にいつまでも残し、限られた時間（とき）を、人として、大切な自然を守りつつ、家族ぐるみ

づかれないまま咲いている姿は、「可憐な清々しい」ものでした。花園に入り、芝桜に混じっている雑草を取り除いていると、株の間からミミズが一緒についてきました。いろんな昆虫も越冬のためようやくねぐらを見つけたと言うのに、突然掘り出され、「可愛そうに」と思い、そつと、土をかぶせてやりました。来年に向けて、ミミズや小さな虫たちが、土をつくり、春には、草花や樹木がいろいろな花を咲かせ、夏は緑の大きな葉で木陰をつくり、秋には紅葉で人々の目を楽しませ、私たちに「心の癒し」を与えてくれる大切な自然に対し、人間が生きるために都合で、自然の環境を変えてはならないことと思い、花園の手入れに日々明け暮れております。

相双支部では、平成十七年十一月十七日～十八日に農業農村整備事業に関する先進地視察研修を、管内会員の役職員等二十四名参加にて実施致しました。

今年度は、宮城県の農業農村整備事業についてということで、(1)宮城県古川地方振興事務所管内

〔宮城県古川地方振興事務所管内〕
〔渋川地区〕（古川市）

県営地域用水環境整備事業
ワーキングアップで進める水路整備について

（栗原市）
施設の維持管理について
小水力発電について

（2）宮城県迫川上流土地改良区連合
〔宮城県迫川上流土地改良区連合〕

につきましては、連合内の会議室において、佐藤事務局長と白鳥次長より土地改良区の概要及び施設の維持管理や小水力発電等について説明があり、その後質疑応答が行われました。どの観察先でも担当の方々の熱意あふれる懇切丁寧な説明があり、参加の方々も熱心に質問するなど、

づかれまま咲いている姿は、「可憐な清々しい」ものでした。花園に入り、芝桜に混じっている雑草を取り除いていると、株の間からミミズが一緒についてきました。いろんな昆虫も越冬のためようやくねぐらを見つけたと言うのに、突然掘り出され、「可愛そうに」と思い、そつと、土をかぶせてやりました。来年に向けて、ミミズや小さな虫たちが、土をつくり、春には、草花や樹木がいろいろな花を咲かせ、夏は緑の大きな葉で木陰をつくり、秋には紅葉で人々の目を楽しませ、私たちに「心の癒し」を与えてくれる大切な自然に対し、人間が生きるために都合で、自然の環境を変えてはならないことと思い、花園の手入れに日々明け暮れております。

相双支部では、平成十七年十一月十七日～十八日に農業農村整備事業に関する先進地視察研修を、管内会員の役職員等二十四名参加にて実施致しました。

今年度は、宮城県の農業農村整備事業についてということで、(1)宮城県古川地方振興事務所管内

〔宮城県古川地方振興事務所管内〕
〔渋川地区〕（古川市）

県営地域用水環境整備事業
ワーキングアップで進める水路整備について

（栗原市）
施設の維持管理について
小水力発電について

（2）宮城県迫川上流土地改良区連合
〔宮城県迫川上流土地改良区連合〕

につきましては、連合内の会議室において、佐藤事務局長と白鳥次長より土地改良区の概要及び施設の維持管理や小水力発電等について説明があり、その後質疑応答が行われました。どの観察先でも担当の方々の熱意あふれる懇切丁寧な説明があり、参加の方々も熱心に質問するなど、

然環境がどんどん破壊されつつある今日、《新緑は山を上り、紅葉は山を下りる》この美しい景色・豊かな自然環境を、後生にいつまでも残し、限られた時間（とき）を、人として、大切な自然を守りつつ、家族ぐるみ

で、丹誠こめる樹木・草花への除草・管理が、通りすがりの人々の目に温かく《愛の花園》の森が、「ほほえむ」ことでしょう。

そんな中で、この樹木・草花・小鳥・虫たちと共に生きたい。

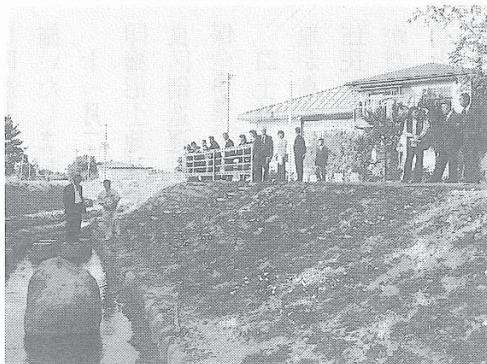
そんな中で、この樹木・草花・小鳥・虫たちと共に生きたい。

とても充実した研修でした。また、宿泊先の鳴子温泉では、意見交換会でより一層の親睦を深められたことだと思います。

今回参加されました皆様から、大変有意義な研修会であり、今後もこのような研修を是非継続してほしい

との意見が多數ありました。ご参加して頂きました皆様、いろいろとお世話になりました本当にありがとうございました。

また、当支部では、相双地方土地改良区事務局長連絡協議会の先進地区視察研修にも協賛しております。今年度は、平成十七年九月十五日～十六日に胆沢平野土地改良区の①概要について②自然環境に優しい土地改



いわき文部

岡崎郁恵

今年の四月に入社いたしました岡崎と申します。

以前は大勢の中で働いていたので、現在の一人の世界に戸惑いがありました。自分次第で事が動く責任感と達成感は行事を重ねることに自信に繋がり、今ではやりがいとなつて日々成長させていただいています。

さて、平成十七年度いわき支部農村整備先進地研修に三十七名の多数

のご参加いただきました。研修地は那須野ヶ原土地改良区連合（栃木県）。

偶然にも七月初旬に行われた職員連絡協議会で講演致しました星野恵美子事務局長の土地改良区でした。参加者職員の中では今回二度目の拝聴

される方もいらっしゃいましたが、以前講演内容が良かつたので一度行きたかった、是非理事長にも聞かせてあげたかったなど、大変満足していただきました。そして当日、星野事務局長ご本人の説明という幸運に恵まれ充実ある研修でした。

※主な内容

・那須野ヶ原の概要

・21世紀創造運動について
説明終了後、小水力発電の施設

を見学しました。

※その他

・川治ダム見学

日本第4位の高さを誇るアーチ式ダム

かんがい及び都市用水の供給を目的とした多目的ダム

かんがい用水は主に土地改良

良施設と維持管理について③現地見学ということで、県職員、土地改良区事務局長及び職員計九名にて視察

事業対象となる地域に対し補給を行っている。

小水力発電 那須特有の地域を生かし扇状地の傾斜の速度を利用して電気を発生させる仕組みとなつてます。ここで発生した電力は土地改良施設に供給し、維持管理費の軽減を図っています。そしてこの地域は家畜が多いのでバイオマスの有効利用について真剣に取り組んでおり、地球温暖化を引き起こすCO₂の排出削減に貢献できるとされています。

このような事業を推進していく上で経費がかかりますが、国や専門機関を利用していくことで負担を軽減しています。

どの取り組みも地域の特性を生かし、環境問題に焦点を向けて実行しています。自然エネルギーを使うことで無駄なコストが消え、一人一人の負担が軽減できるという良い循環となつてています。

環境問題は深刻化しており、自然災害となつて降りかかり世界各地に被害が出ています。人の手で自然を壊すことも救うことも個人の意識からだと思います。今回この研修を通して、水・土・里の有り難さとそれを維持する心得を学びました。

県中支部

吾妻正敏・二瓶眞一

会員の皆様には日頃より大変お世話になります、ありがとうございます。

平成十八年もどうぞよろしくお願ひいたします。また、皆様にとつて楽しい良い年となりますようお祈り申し上げます。

さて、県中支部では平成十七年十一月二十八日(月)～二十九(火)の二日間農業農村整備事業視察研修を実施いたしました。

十一月二十八日は千葉県佐倉市の印旛沼土地改良区で、21世紀土地改良区創造運動への取り組みや、資源保全事業について研修を行いました。

21土地改良区創造運動では、住宅地が高台に集まっているため、地域住民の維持管理事業等への参加がなかなか難しいということから、NPOと連携した活動が多いとのことでした。

農業用水は印旛沼からポンプ場、用水路を通じて広大な水田地帯の隅々まで配水され、水田からの排水は排水路に集まり、ポンプ場から再び印旛沼に戻るといった地域内での循環かんがいが行われているということです。

十一月二十九日は茨城県つくば市

の独立行政法人農業生物資源研究所で遺伝資源、遺伝子の組み換えについて研修しました。

遺伝子はバクテリアに由来するものが多く、環境への拡散や、作り出された組み換え体の食品素材としての安全性に対する消費者の懸念、組み換え体の受容と普及に当たつての障害。組み換え体の安全性に対する社会的な動きを受けて、消費者により受け入れられやすい、安全性に十分考慮した組み換え体の選抜技術を開発したことです。

研修に参加した皆様からは、食品の「遺伝子組み換えでない大豆」等の表示がよくみられる事から「組み換え」には不安があつたが、安全性評価等の話も聞いたことから、遺伝子の組み換えで作り出された農薬を使わなくてもよい作物と、遺伝子組み換えでない農薬を使った作物どちらが安全で安心かと問われたら農薬の方が恐いかなという感想も聞かれました。

二日間の研修は、情報の交換をしたり、一緒にいろいろなことに驚いたり、興味を持つたりと、志を同じくする仲間とのよい出会いの場でもあつたと思います。

これからも魅力ある規察研修や業務研修会の企画をして参りますので、是非ご参加下さい。また皆様から、

こんな研修をしたいというご要望があれば是非お寄せください。



県中支部研修

永年勤続

土地改良区と共に歩んだ30年

柳内喜久子

開して参りました。

農独特の用語や専門的な工事設計打合せ・予算要求の積算等がありましたが、各機関や土地連の方々との出逢い等があり助けて頂きました。

私の信条で「為せばなるなさねばならぬ何事も成らぬは人の為さぬなりけり」という言葉が大好きで、自身を励まして参りました。事務局長に三十六歳になり責任を感じ職員四名で団体営事業二十地区を完遂し、その都度困難があり、地元組合員と説明や対応・障害との折衝等諸々あり苦労もしましたが、今ではよい思い出となつております。

一番印象に残る大変な事業は、平成元年八月の台風被災で、元年に立法化され国で第一番に採択された災害関連区画整備事業を実施致しました。そのため各県より多數問い合わせ等があり大変な思いを致しました。

会も発足して二十九年になり、この様な会を設立して頂き感謝しております。年に一度県内の土地改良区の職員の相互的な交流の機会があります。農業情勢もまだ厳しいと思いますが、皆様と交流し困難を克服しながら共にこれからも水土里ネットが躍進発展して行きますよう頑張りましょう。

農業土木技術者としての30年

水土里ネット福島
福田一夫

る風情の中、新鮮な空気・マイナスイオンを浴びて元気を一満頂き感謝しております。

福島県土地改良団体職員連絡協議会

するという、大きな役割の「一助を担ってきた」三十年であつたと、大きさではありますが、私なりに自負しております。

また、このような大切な時期に当たって、日本の農村・福島県の農村というテーマの中で、農業農村整備事業の農業土木技術者として、調査、計画、設計に関わってこれたことが今後の私に意義深いものがあります。

私なりに時代の要請として、第一番目に生産基盤の整備であるほ場整備、第二番目に生活基盤である農業集落排水、第三番目として農業・農村というテーマの中で農業農村整備事業に残された課題の一つである、環境基盤の整備である水・地域環境があり、これが最後の総まとめと言うべきものではないかと考えます。

さらに、農業・農村というテーマで農村の文化、伝統、生活、環境、景観等について、あらゆる角度から、勉強をし、その知識・データを収集・整理し、それを体系的にまとめることも今後の農業土木の課題であると考えます。

今後、農業土木は時代のニーズに対応する技術力も必要であり、また農業農村整備事業の展開について、近年の環境問題に対する関心の高ま

私が土地改良区に採用されたのは昭和五十年一月でした。以前は横浜の英國商船会社で英文タイプピストとして勤めておりましたが、結婚のために田舎で暮らすようになりました。そんな時育児に追われている時に、ある役員の紹介で勧められ縁があり就いたわけです。当時は、「全く違う業種なので大丈夫かしら」と躊躇う気持ちでした。農業のことは無知で無我夢中の生活でしたが、役員の方々・組合員との一進一退の毎日で皆様に支えられてきました。それから三十年も経過し「光陰矢のごとし」歳月の過ぎざりを感じます。

振り顧みますと、土地改良事業も五、六十年代が最も盛んに事業を展

請に沿つて大きな変遷を遂げてきましたところであり、その結果として、今後の21世紀の国民の夢というべき「豊かな農業、美しい農村」を実現

りも時代の要請と受けとめて、その結果が新しい農業土木の繁栄・発展につながるものと確信しております。

最後に、多くの諸先輩、関係諸氏に支えられた三十年であり、心より敬意を表するものであります。

20年の節目に想う

鮫川堰土地改良区

大井川 和 弘

早いもので土地改良区に奉職して、二十年が過ぎました。今、お世話になつた当時を振り返れば、かんがい区域や管理すべき水路の状況など全く解りませんでした。ましてや、組合員については、生まれ育った地域以外は初めての方ばかりです。従つて、当時電話にて、組合員さんや総代の方々から要望を受けても、実地と一致せずしどろもどろになつたことを記憶しております。しかし現在はどうでしょう。あの

頃、わざわざ現地へ行かなくても電話で用が足りるくらい地域に熟知したいと思つていたのが、いつの間にかそのようになつてしましました。しかし、これも当たり前といえばそうでしょう。二十年の歳月とは、とても大きくまた責任の大きさを実感させるに十分であります。

時代もまた、大きく変遷しました。予想もしなかつたI.T.の発達で国際間の距離が益々縮まり、それに伴い、国際競争も激化しております。これは農産物も然り。他方で、公共事業費の削減に伴い、かつてのような事業予算もままなりません。食糧の自給率はお寒い限りであります。

このような状況下で、我々土地改良区に關係するものは何をすべきか。

地域の皆さんから理解と共感を勝ち取るためにはどうしたらよいのか。

組合員の信頼を得て円滑な事業を遂行するにはどうすべきか。そして、土地改良区を通して日本の農業にいかに貢献すべきかなど日頃漠然と考えている事が、希望とも不安ともつかず次々と押し寄せてくるのです。

私は、これまでの経験を生かしつつ、また初心を忘れずに一層職務に精励したいと思います。

今、土地改良区創造運動の積極的

な展開が叫ばれています。その意図するところは、土地改良区と組合員や地域の皆さんとの距離を出来る限り小さくする事だと認識しております。今回、執筆の機会を頂きましてが、改めましてその趣旨をより深く理解し、積極的に展開したいと思います。そして、この豊かな農村環境と崇高な使命を担つてゐる土地改良区を、次の世代に確実にバトンを渡せるように、微力ながら努力する事を心に刻みたいと思います。

バランス、 バランス…

水土里ネット福島

紺野みのり

この度勤続十年の表彰を頂き、この原稿の作成依頼を受けました。どのような内容の話を書いたものかと考えましたが、目下の悩みであります。「仕事と家庭の両立」について、筆を進めてみることにしました。しば

らくの間お付き合いください。

さて、十年も同じ職場に勤務して

いて、改めて「仕事と家庭」とは何事か?と思われるかもしれません、

両者のバランスについて十年目にしで始めて、考えさせられているところです。私は現在、夫と二人の子供の四人暮らしをしています。私のよ

うに子供がいて親と同居していない者が、フルタイムで働くためには、何点かの条件をクリアしなくてはなりません。まずは夫の仕事に対する理解です。「女は家で家庭と子供を守つていればいいのだ!」などと時代錯誤な事を考へてゐる夫であれば、

結婚した事を後悔するしかありません。もちろん子供たちの協力も必要です。そして、家庭での理解と同じくらい重要なのが、勤務先・上司・同僚等の協力です。特に子供が小さいうちは、病気や怪我で仕事を休まなければならぬ場合が多くあります。当然、上司・同僚の協力なしで

仕事を続けることは、不可能という事になります。幸運な事に、私はこれららの条件に恵まれ、今まで勤務し続けることが出来ました。

では、なぜ今頃「両者のバランス」について悩む必要があるのでしょうか?

仕事をしていない妻（専業主婦）は、一日の起きている全ての時間（一日二十四時間の内、仮に睡眠六時間とすれば残りの十八時間）を家事と育児にあてる事が出来ます。でも、働く妻（仮に兼業主婦と呼びましょう）は、それを、仕事以外の時間（十八時間からお昼休みも含めた九時間をひいた残りの九時間）で、こなさなくてはなりません。単純に二倍のスピードが要求されるわけです。とは言つても私などの場合は、手抜きで「スピードそのまま量を半分」と言つたところですが…。これはあくまで朝八時半から夕方五時まで働いた場合の話です。しかし実際には、男性と対等に仕事をこなすとなれば、毎日深夜まで…とはいかなまでも、それなりに仕事に費やす私みたいにそれ程手際の良くない者は…。そしてそこで、「仕事と家庭のバランス」の壁にぶち当たる訳です。上の子が小さい頃、私の仕事の忙しい日が続くと、彼女は決まって熱を出したものでした。子供には母親の愛情が不足している事が、分かるのでしようか。熱を出せば、母親の気持ちが自分の方に向く事を、本能的に知つていたのかもしれません。



子供たちを仕事の犠牲にはしたくなかった付かずで、両方中途半端な状態が、現在の私です。

近年、女性の社会進出に伴い、晚婚化・少子化が進んでいます。しかし、兼業主婦の立場から言わせていただけば、当然の現象です。実際、仕事と子育ての両立は易しいことはありません。両方ともうまくこなそうと思えばなお更です。没頭できる仕事があれば、家庭も子供も要らないと思う女性が増えるのも仕方が無いのではないか…と、今この立場になつて思います。

どなたか、仕事と家庭の良いバランスのとり方をご存知でしたら、教えてください。もしかしたらその方法で、日本の少子化にも歯止めをかけられるかもしれません。

私が、土地連に入会したのは、昭和四十九年の三月に高校を卒業しその数日後でした。その入会前の高校三年生の夏休みに郊外実習ということで、農業土木課のクラスは、それが市内の測量関係会社へ実習に行くことになつていました。

そこで私は、クラスの担任より土地連に行くようにといわれて七月の後半の二週間測量実習をしました。それまでは、学校での測量実習はあまり積極的でなかったので、実際に社会人と仕事を出来るのか、不安と心配でいっぱいでした。

実習の内容は、いわき市小川の赤井地区のほ場整備事業の現況測量ということことで、出発当日待合せの場所と時間を確認して、その場所に向かいました。それまで、学校での測量が平成八年度をピークとして年々下

30年振り返って

水土里ネット福島
斎藤庄二

しましたが、当時真夏で待合せの場所に作業服・ゴム長靴をはいて待つ事が、とてもはずかしくて学生ズボンに普通のシューーズをはいて、現地で着替えたことが思い出されます。

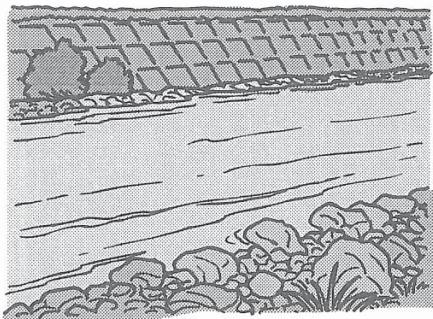
そんなことで、一台のライトバンに私を含めて五人で二週間の測量の手伝いをしました。そのころの宿は、いわき小川駅前にあつた魚屋さんの二階に宿泊し毎日現場に行つておりました。また、測量の内容はトラバ一測量・平板測量・一筆高低測量でしたが、そのころは大変暑い毎日でありましたが、何も出来ない私を、暖かく見ていただいたお陰様で、作業が進むにつれて充実感が出て来まして無事郊外実習を終えることが出来ました。

この様な縁がありまして本会に入会したわけであります。その後も多くの先輩方々や、会員のみな様にお世話になり現在に至っております。今日三十年を振り返りますと、大半は、ほ場整備事業の調査・測量し計画書作成及び実施・変更設計そして後半は、農業集落排水事業の業務が主な仕事でした。

また、近年はハーデ事業からソフト事業に重点が移ると共に、事業量

がり平成十四年度から急激に落ち込んでいる現状です。この様な中で私は、三年前に技術部から総務課に異動になりました。土地改良区職員のみな様と多く接するようになります。これからも土地改良区の役割を会員の皆様と広く一般の人々に、伝へ土地連に望まれる仕事を続けて行かなければ今、思うところあります。

今回、土地改良団体職員連絡協議会の三十年表彰をいただきまして、これまで土地連の業務を健康で出来ましたことに、感謝しまして寄稿文と致します。



勤続20年表彰を受賞して

柳津町土地改良区

小島 貞彦

います。

本年度は、昭和五十七年度頃より実施した団体営ほ場整備事業の償還が数地区完了しますので該当地区の組合員の方は「ようやく返済が終わって良かった」と言う喜びの声が聞かれます。

私としても、「皆さん良くがんばつて返済していただきました」と感謝の気持ちが沸いてきます。

それと同時に、組合員が高齢化してきている状況の中、整然と区画整理したば場、用排水路施設などを今後、適切にどのくらい管理していくかとの不安もあります。

さて、第二十九回職員連絡協議会総会の席において、勤続二十年表彰を頂きましたことにありがとうございます。

平成十七年度も残すところ数カ月となりました。ここ数年の、めまぐるしい社会情勢の変化、市町村合併、土地改良区の統合、合併と会員の皆様には、何かと気ぜわしい一年だったことと存じます。

当土地改良区は、基盤整備事業、かん排事業、揚水機の改修などハード面はかなり整備が図られ、維持管理、償還業務、町からの維持管理関係受託事業などが主な仕事となつて

会が頻繁に開催され、集落営農という言葉を毎日のように耳にします。

今後各地区、集落において真剣に考えていかないと農業、農家、地域を存続できませんよ。ということか

と思います。

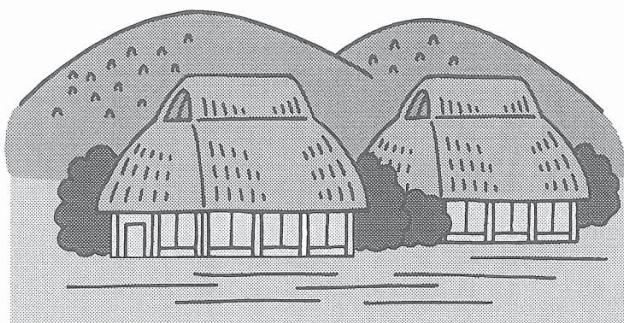
これらの地区集会のなかで参加者が腹を割った意見を出し合い、これら貴重な財産、地域を守る方法を見つけてゆきたいものです。

本年が会員の皆様にとってより良い年になりますことをお祈り申し上げます。

この制度のおかげで、各地区の維持管理経費の負担軽減が図られ非常に助かっています。

せつかく多額のお金を投資して整備した、農地および土地改良施設でですからいつまでも、適切に保全管理してゆきたいものです。

現在、集落営農に関する会議、大



平成17年度視察研修

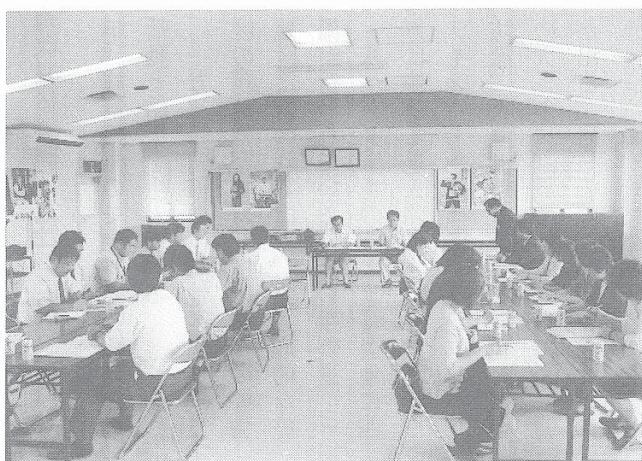
県営ほ場整備事業辻興屋横堰地区を視察して

伊達西根堰土地改良区 遠藤俊明

県外の模範的な農業農村整備事業を視察研修し、県内の事業推進の参考とすることを目的とし、平成十七年九月八日(木)～九月九日(金)に山形県の三郷堰土地改良区、西郷土地改良区の二土地改良区の視察研修を実施しました。

久しぶりの視察研修でしたが、多

数のご参加をいただきありがとうございました。二土地改良区での研修が充実したものであつたことは言うまでもなく、会員相互の親睦を深める良い機会になつたと思います。研修の感想も多数寄せられておりますので、ご紹介いたします。



本地区の特徴区画形状の決定にあたり、水田作業の省力化を目指す観点から、長辺三〇メートル横辺六〇メートルを水平仕上げを原則とした。用水は、河川からの用水となつてるのでパイプライン方式となつている。排水路については、ほ場の両面に排水する事から小排水路は、地下排水路となつてている。

本地区では低コスト省力化を目指して造成した標準区画一・八ヘクタールの大区画ほ場を基幹としたほ場整備事業が完了をむかえ、これを契機に集落営農への取組みが進められております。事業計画の概要として、用水路工としてパイプライン二十二キロメートル、揚水機場二箇所補水、反復揚水機場二箇所、排水路工二十九キロメートルが施工されています。大区画ほ場を造成するまでの問題点について山形県立農業試験場等から全面支援を受けて問題解決につなげています。

山形県鶴岡市の西部に位置する当地区では低コスト省力化をして大型機械を導入して、その共同利用組織による効率的な地域営農システムが確立されている。

本地区的農業は、水稻を基幹とする砂丘地畑園芸との複合経営農家が大半で、平均耕作面積は、水田二・七ヘクタール、畑一・〇ヘクタール。畑作の収益が高い事から、他の地域に比べ専業農家や認定農業者が多く、また後継者も育つてきます。本事業を契機にトラクター以外の機械更新が進み十条田植機二台(三人乗)、一回の作業能力は、六〇〇メートル無人ヘリコプターを導入し空散防除組合による管理運営を行つております。汎用コンバインを導入し水稻五十九・五ヘクタールの他大豆生産組合を設立し他の生産組合の委託している。

本地区は、前述のとおり近代農業土木事業と農業経営の合理化を進めている。今後農業の生きる道の方を実感いたしました。

研修によせて

矢吹土地改良区 吉田昌照

視察研修

会津大川土地改良区 大竹伸明

当土地改良区では、平成十九年度制度化にむけて農林省で進めている資源保全施策事業の実態調査指定地区となっています。「農地の生産、環境資源、制度資本を地域で保全していこうとする活動を支援する」事業ですが、現在に至つて未だ具体的な形が見えない。

研修地の一つである天童市の三郷堰土地改良区は、この施策事業の基礎となるモデル地区で、整備事業を独立した研究組織を作り、地域を巻き込んだ施設の保全活動を幅広い観点で展開している。

最上川からの堰水を揚水機灌漑利用する五百ヘクタールの受益地、千人の組合員。抱える施設は二百メートルのゲートをはじめ受益地からすると大規模なものが揃っている。平成三年の事業完了時は、これから先「人もない、お金もない、知識も技術もない」そんな「三無い」（山形弁で「できない」）で、どうして行けばよいか前向きに試行錯誤した十五

年。施策事業のモデルとなるほどの活動と結果を生んでいる。

一方、鶴岡市の西郷地区土地改良区の現地視察では、庄内最後の整備地区と言われるほど、集大成的な整備が行われている。担い手促進、一方八ヘクタールの巨大集積農地に四方に伸びる進入路、すつきりパイプライン。十条田植機、ラジコンヘリ防除、大型汎用コンバイン化と規模の大きさに、見ていただけでため息が出る。研修の際、パイプラインの維持管理については様々な意見が交わされたが、全ての整備が終了し、整備された農地がフル稼働する時の組合員の笑顔を見てみたい。

どちらの改良区も、魅力的な理事長、事務局長が組合員を巻き込み、地域を巻き込み、最後には地域全体が意欲的に活動を支えている姿に感動し、その結果に納得できた研修で成三年の事業完了時は、これから先寄りの際には、地域限定「つるおかし」まんじゅうを一度御賞味ください。

今回、職員連絡協議会視察研修に参加させて頂きました会津大川土地改良区の大竹と申します。

一日目の研修では、県土地連より出まして山形県天童市にあります三郷堰土地改良区さんを視察しました。この三郷堰土地改良区さんは、自然水利がなく、すべて揚水機でかんがいをしている地区面積五〇〇ヘクタールという小規模な土地改良区で、二十一世紀土地改良区創造運動への取り組みがすばらしく、スタンプレーといったイベントや地域の小学生を対象に多面的機能と併せて農業用水の大切さを教えるなど精力的に活動されているみたいでした。中でも目を引いたのが農家の方だけではなく非農家の方も巻き込んだボランティア活動のゴミ拾いやふれあい農園です。私も勤務中に痛感させられるのですが「自分達の水路は自分達で守る」という意識が低下しているよう思われます。一部ではあります

かし現地に行つて見ると一人で対応できるゴミの量だつたり、少しゴミを取り除けば詰まりが解消したりと多少手を煩わせれば解決できる問題でさえ電話で済ませてしまう方が増えてきています。それが土地改良区の仕事と言わればそれまでですが、自分達は何とかしようとやってくれている組合員さん達も大勢います。

組合員や住民の皆さんの意識向上を謀るにはこの活動はとても意味があるものだと感心しました。さらに月一回程度ではありますが非農家の方々でも土にふれあい、作物を育てる事のできるふれあい農園、これも農業に関して理解を得る為には重要な活動だと重ね重ね感心しました。

二日日の研修で視察した山形県鶴岡市にある西郷土地改良区さんからが意欲的に活動を支えている姿に感動し、その結果に納得できた研修でした。最後に、山形県鶴岡市にお立した。最後には、地域限定「つるおかし」まんじゅうを一度御賞味ください」と度々連絡を受けます。し

て（詰まつて）いるので取り除いて下さい」と度々連絡を受けます。し

視察研修に参加して

会津北部土地改良区 鈴木秀優

会津中央土地改良区 二瓶剛史

-19-

三郷堰土地改良区での二十一世紀創造運動・土地改良施設の保全管理の研修は、今後の土地改良区のあり方や地域との関わり、人との関わりについて役職員が一丸となつて取り組んでいる姿がとても印象的でした。ハード事業完了後の維持管理に苦慮するなかで、役職員で組織する水土活動の中心となり、施設周辺のゴミ拾い活動や、ふれあい農園・頭首周辺の環境美化活動・小学生を対象とした総合学習などの取り組みを二十一世紀土地改良区創造運動の一環として積極的に行ってています。この研究会は土地改良区の業務をしながら対外的な活動は難しいということから、役職員や組合員で組織され、現在では非農家や地区外からの参加者もあり月一回のペースで活動しているそうです。

西郷土地改良区では三〇〇m×六〇mの一・八haの大区画ほ場を目的に、ほ場整備事業（担い手育成型）の辻興屋横堰地区についての現地研修をしました。平成十二年に完

了したこの地区では當農形態が水稻十砂丘地園芸（メロン等）の複合經營であり、水稻にかける労力はできる限り省力化したいという理由から幹線排水路以外すべて地下埋設のパイプラインで施工されています。三十年もの間、賦課金未収ゼロであるという驚くべきお話もあり、役職員の方々の努力の結晶ではないかと思います。

二日間の研修中、参加された方々とは仕事上の話はもちろんのこと、プライベートな話題にいたるまで日頃なかなか話すことができないことも語らうことができ、親睦を深めることができたのは、非常に有意義な時間でありました。

最後に、農家組合員や地域の将来のため何をすべきかという双方の土地改良区の役職員・地域の方々の熱意を感じ、私も自分の仕事に信念とプライドをもつて、研修中に学び感じたことを今後の仕事に生かしていくといいます。

この地区は、担い手農家十五戸で生産組合を組織し、その中で水田二六・一ha・畑三三haへ大豆へ作付しておりそれらの作業をするために、十条の田植機、汎用コンバインへ幅三・六m等を所有しており、作物等を生産していました。

その他、環境美化運動ということであり、水路敷に景観作物の植栽へあじさい等々や小学校等への出前授業・施設の見学会等を実施されていました。そのような中身であったので、21世紀創造運動の視察研修ではありませんでした。

この地区は、担い手農家十五戸で生産組合を組織し、その中で水田二六・一ha・畑三三haへ大豆へ作付しておりそれらの作業をするために、十条の田植機、汎用コンバインへ幅三・六m等を所有しており、作物等を生産していました。

又、担い手育成基盤整備事業などで集積についてもかなり進んでおり、要件の他に高生産性農業集積加算による利用権設定等をかなりしており、それらの達成によって約一億円の補助金を頂いていた。そのお金は、農家負担軽減である。

一、21世紀土地改良区創造運動・三郷堰土地改良区について
三郷堰土地改良区の視察の際、21世紀創造運動の他に平成十七年度より拡充され事業実施中の国営造成管理体制整備促進事業の平成二十一年度の目指すような形もあった。

二、県営ほ場整備事業「辻興屋横堰地区」・西郷土地改良区について
受益面積二一〇・七ha、総事業費約三十六億円かけて実施した事業で地区が天童市ということもあり都市化・混住化が進んでおり、農家だけでは維持管理に限界があるため地域住民も参加して維持管理を行つており、維持管理で出たごみの処分については、土地改良区で一括で行つてゐるという現状であった。

又、水路の維持管理に対して、地域に土地改良区より交付金ということで一ha当たり@四、〇〇〇円の支出であった。（水路清掃の他、簡単な目標の補修代も込みである。）

この地区は、担い手農家十五戸で生産組合を組織し、その中で水田二六・一ha・畑三三haへ大豆へ作付しておりそれらの作業をするために、十条の田植機、汎用コンバインへ幅三・六m等を所有しており、作物等を生産していました。

又、担い手育成基盤整備事業などで集積についてもかなり進んでおり、要件の他に高生産性農業集積加算による利用権設定等をかなりしており、それらの達成によって約一億円の補助金を頂いていた。そのお金は、農家負担軽減である。

視察研修を終えて

その他、水管理については、用水路及び小排水路についてはパイプライン、支線排水路についてはオープン、揚水機は四箇所であり、用水路等のパイプラインの箇所については、草刈等の維持管理の時間は軽減されるが、パイプライン自体の維持管理は大変である。

見えないので状況がわからないから、詰まつた場合一旦、掘り起こし

てからでなければ見れないで、この辺の対策が必要でないかと思った。今回の研修とは、関係ありませんが、西郷土地改良区の賦課金の未納は〇%であり、それには役職員や総代の方々が、集金等を行って出来た結果がありました。

最後に、西郷土地改良区を視察する際、鳥海山がきれいに見えました。

平成17年度視察研修に参加して

塩川西部土地改良区 青木祐利子

私は今回初めて団体職員連絡協議会の視察研修に参加しました。山形

県の三郷堰土地改良区では「21世紀土地改良区創造運動」の取組みについて研修させていただき、土地改良

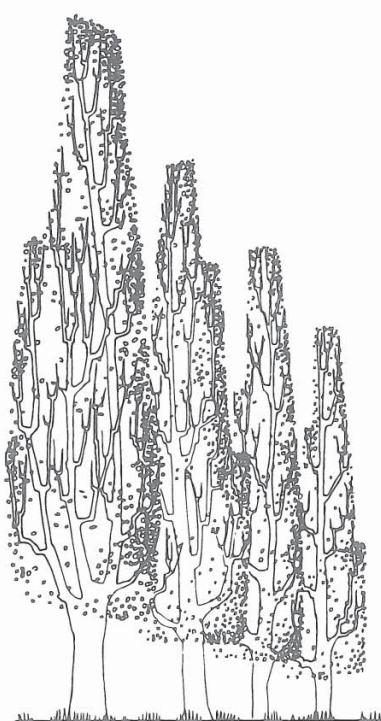
区役職員、役場、農協、組合員、地

域住民が一丸となつて環境整備など

様々なことに挑戦していくた苦労話、また成功までの道のりなどをうかがい大変勉強になりました。人とのかかわり、自然とのかかわり、地域とのかかわりを大切にすることによつて大きな活動につながつたとのことでした。私の知つている土地改良区のイメージとは少し違つて、とても

興味のあるお話をでした。

研修が終わつてから娘親会では、かなり緊張も解けて普段はあまり聞けないようなことも皆さんといろいろお話しして、とてもいい情報交換ができました。「21世紀土地改良区創造運動」のきっかけもこういう話し合いの中の「かかわり」から見つけることができるなら、土地改良区職員同士のネットワークも大切にしたいと思います。そして、これからも土地改良事業だけに限らずいろいろな分野の視野を広めるためにも、このような研修に参加したいと思いました。





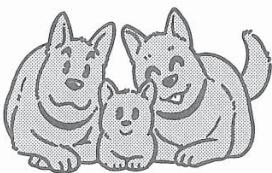
土地改良区で思うこと

鮫川堰土地改良区 伊 藤 弘 美

新年明けましておめでとう御座います。

戌年の年男年女のコーナーに寄稿依頼のお手紙をいただきまして、なんぞ私に?と驚いております。確かに年女ではありますが、鮫川堰土地改良区に在籍して九年目、歳ばかり重ねているひよっ子職員です。土地改良区の仕事どころか、存在すら知らない有様で入り、毎日が耳新しい言葉や出来事ばかり、驚きの連続でした。当土地改良区は、遠野地区より小名浜迄の広い地域を灌漑する土地改良区で、それぞれの地域で人々の気質や条件も違い、対応にも不安な日々が多々有りましたが、本当のお米の美味しさに出合い、農作業の大変さに触れ、水路の維持管理の大切さやたいへんさを知りました。車外に見える雑草や葦の生い茂る田ん

ぼが目に付くようになり心が痛むようになりました。理事長や先輩職員方の助力のおかげで、何とか今日まで過ごすことが出来ましたが、是からは確実な対応と、地区の人々もつともつと、土地改良区を広く知つてもらうと共に、私も知った農業への感動や土地改良区の存在の意義も理解して頂けるよう務めていきたいと思います。



農業の変化に対応して

伊達西根堰土地改良区 引 地 亨

以前、東京都成城にあるとある高級食材を扱うスーパーを覗いた時、普通では考えられないような価格の

農産物の数々を目の当たりにしたこ

とがある。そこで、我が町（福島県伊達郡国見町）で生産された桃も綺麗に飾られ販売されていた。八月上旬のことであるが価格は一個「二千円」であった。農産物の価格の下落が続く中で、このような価格で販売できるものなのだろうかと違和感を少なからず覚えた。それと同時に農家ではこれまであまり行われてこなかつた販売への積極的な働きかけが必要となり、様々な農業経営の改革が必要となるであろうと感じた。

現在日本の農産物の自給率は約四〇パーセントであり、安価な輸入品により多く依存しています。結果、農産物の市場価格の下落を招き採算をとる事がなかなか難しくなってきています。後継者問題も深刻であり、田んぼや畑を見てもなかなか若い人を見かけることが少なくなり、遊休地

も目に付くようになつてきました。そうした農業をめぐる厳しい状況の中で、直売所やインターネットを利用して直接販売、スーパー等との契約販売などの方法で販売努力をしている農業者もいます。又、農作物の高品質化によるブランド化、収益性の高い農作物の生産への取り組みも見られます。

私も土地改良区の一員として、農業をしている両親の手伝いを積極的にし、他の農業者とのコミュニケーションをとることで農業の実情と地元に適した農業経営を知り、少しでも農業を営む方々の役に立てるようになることが、私の今年の目標であり課題でもあります。

「ウォーキング」

穴堰水系土地改良区 鈴木麗子

くこと。来年の抱負歩くこと。体が
続く限り私の抱負として行きたい。
そして今日も、懐中電灯を手にウォ
ーキング。

車を運転しているとよく歩いてい
る人を見かけます。「頑張っている
なあ。疲れるだろうな。」と他人事で
した。その私が今、歩いているので
す。と言うのも私は、自分自身健康
だと自己判断をしていました。何を
食べても美味しく感じられていたか
らです。当然、何を食べても美味しい
のですから、体重は増加傾向にあ
りました。健康だから太るのだと思
い込んでいました。しかし、その反
面、肩は張るし、体が重くだらない、
動く事が苦になっていたのは事実で
す。家の掃除も思うように出来ない
のです。ある日、何げなく自宅で血
圧を計つてみました。なんと、もの
すごい数値が出たのです。しかし、
何の自覚症状もないのに、きっと、
壊れているのだと思つていたのです。
実家に行つた時、その話をすると、
「何言つているの、すぐに診てもらつ
たら。倒れたらどうするの。」と言わ
れ、近くの医院に行つてみました。
すると、自宅で計つた数値と同じだ

ったのです。先生もビックリしたよ
うで「よく倒れなかつたですね。血
を探つて検査してみましょ。」と言
われ、その日より薬を飲む事となつ
たのです。今まで健康だと思つてい
ただけに、ショックは大でした。今、
思えば、体がだるかったのは、その
せいだつたのかもしれません。その
日より私は歩くことにしたのです。
「健康は体力作りから」と自分に言い
聞かせ、夕食後、歩いています。最
初は三十分、次に四十分、そして今
は五十分位歩いています。また、私
のストレス解消にもなつてているよう
な気がします。何も考えず黙々と歩
き、夜空を見上げ星がたくさん出て
いる時は、スーとした気持ちになり
ます。寒さも忘れてしまいます。体
の方も薬が効いているのか、動くこ
とに閑して苦にならなくなつていて
ます。体が軽いのです。健康が当たり前と
思つていましたが、この事で目が覚
めたような気がします。「健康が一
番」だと言つことに。今年の抱負歩

.....



水土里ネット福島はみなさんのパートナーです!

農業農村整備事業の調査・設計・施工管理

農業農村整備事業の調査・設計・施工は、国及び県の補助事業として実施されるため、国及び県の検査、設計審査等において技術基準の適合性、経済性の説明が求められ、更には関係機関との協議・調整も必要となります。

本会は、早くからこの支援に携ってきており、今後、より一層の会員サービスに努めてまいります。

ほ場整備事業の支援

ほ場整備事業において、計画から実施設計及び換地業務までを一体的な業務としてとらえ、会員への技術支援を行ってまいります。

計画においては、換地計画を見据え会員及び関係機関との連携により、地域の実情にあった計画をたてることに努めてまいります。

換地業務において農地集積に関する業務・情報提供等による支援、また事業完了した地区において、農用地の利用集積活動、賦課金軽減等の支援に努めてまいります。

確定測量、そして農道台帳・施設台帳作成において、状況を適切に把握し品質の高い成果品を納入することに努めてまいります。

農業集落排水事業の支援

農業集落排水事業において、調査・計画・実施・施工管理・維持管理に携わり多様な業務経験を有しております。

有資格者並びに多くの経験を積んだ技術者、そして関係機関との連携により、適切な処理方式の選定等、地域実情にあつた提案に今後も努めてまいります。

また、完成した処理施設の維持管理、施設台帳作成を一貫して行い、設計部門へフィードバックすることにより、一層の技術向上に努めてまいります。



水土里ネット福島は、会員である皆様の支援を適切に行うため各種登録をしています

水土里ネット福島の登録内容

(平成18年 1月4日現在)

- IS09001:2000/JIS Q 9001:2000 (H15.2.28付、登録証番号JQA-QM9598)
- 建設コンサルタント (H17.12.3付、建17第7079号、農業土木部門)
- 一級建築士事務所 (H14.4.9付、第11(404)1975号)
- 計量証明事業登録 (H7.7.3付、第環34号)
- 測量業者登録 (H17.6.2付、登録第(2)-26856号)
- 净化槽保守点検業者登録 (15.5.14付、福島県知事登録第1353号)
- 産業廃棄物処分業 (H17.11.18付、許可番号0720122234号)



みどり
水土里ネット福島

(福島土地改良事業団体連合会)

〒960-8502 福島市南中央三丁目36番地

Tel : 024-535-0371 Fax : 024-535-1200

<http://www.midorinet-fukushima.jp/> E-mail : info@midorinet-fukushima.jp